

研究課題別中間評価結果

1. 研究課題名： 炎症性腸疾患の慢性化制御機構の解明と治療戦略の基盤構築

2. 研究代表者： 清野 宏（東京大学医科学研究所 教授）

3. 中間評価結果

本研究課題は、腸管リンパ組織・細胞内共生細菌、上皮細胞糖鎖、腸管粘膜自然免疫細胞をターゲットとし、腸管の恒常性維持および破綻のメカニズムを解明する事により、慢性炎症性腸疾患の新規治療・予防・診断法の開発を目指している。腸管二次リンパ節であるパイエル板内、および大腸マクロファージ内で共生関係を構築している特定の細菌がもつ炎症抑制機構やマスト細胞の活性化調節機構については、いずれも極めて新規性の高い知見が得られており、医薬的応用へのシーズが生まれてきている。また、腸管免疫機構の解明に向けた産学官とのネットワーク形成、国内外の研究者との連携に熱心であり、地道な活動を継続している。

これまでのところ、研究は期待を超えるような十分な進捗が認められ、腸管における慢性難治性炎症の制御法を新たに開発するために、動物モデル、ヒト検体をうまく用いて、非常に優れた研究成果が生み出されている。現在の形で研究を進めることにより、今後も大きな成果が生み出されることが期待できるが、さらに「新たな血」を導入することにより、*serendipitous* な研究成果を生み出すことが期待される。また、腸管に常在する細菌あるいはその産物による免疫制御の方法が明らかになれば、経口的に免疫制御する方法が可能になると考えられ、医学的に非常に大きな可能性を秘めていると言える。